

シュッコンアスターのシェード栽培による作期拡大

水越 洋三・柴田 浩

(秋田県農業試験場)

Extension of Cropping Season by Shade Culture of *Aster pilosus* WILLD

Yozo MIZUKOSHI and Hiroshi SHIBATA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

ここ数年来の切花消費の傾向は、洋花嗜好とあいまって添え花的な種類が伸びていることが注目される。添え花の主なものとしてシュッコンカスミソウやスターチス類があるが、これらは秋の出荷量が少なく、品質も低下することから、その代替品としてシュッコンアスターが注目され、急速に需要が増加している。シュッコンアスターは、繁殖が容易なうえ病害虫も少なく、粗放的な栽培が可能であることから、季咲き栽培では生産過剰が懸念された。このようなことから、作期拡大のために昭和61年、62年の2か年にわたり、シェード栽培による盆出し並びに秋彼岸出しのシェード方法を品種別に検討したので、その結果を報告する。

2 試験方法

(1) 盆出しシェード栽培

昭和61年 ①. 供試品種：シロクジャク、早生シロクジャク、ブルースター ②. シェード：6月23日開始、30日間、9時間日長 ③. 耕種概要：4月26日株分け定植、切り戻しなし、6本仕立て

昭和62年 ①. 供試品種：早生シロクジャク、ピンクスター1号、同2号 ②. シェード：6月30日開始、20日間及び30日間、9時間日長

(2) 彼岸出しシェード栽培

昭和61年 ①. 供試品種：シロクジャク、早生シロクジャク、ブルースター ②. シェード：7月23日開始、23日間、9時間日長 ③. 耕種概要：4月25日株分け定植、切り戻し6月2日、6本仕立て

昭和62年 ①. 供試品種：シロクジャク、早生シロクジャク、ピンクスター2号 ②. シェード：8月5日開始、20日間、9時間日長 ③. 耕種概要：4月16日株分け定植、切り戻し6月10日、6本仕立て

(3) その他の管理法

①. 施肥量：a当たり成分量…基肥N、K₂O各1.0 kg, P₂O₅ 2.0 kg, 追肥N、K₂O各0.3 kg ②. 栽植様式：株間35cm, 条間40cm, 2条植え ③. 被覆資材：サンシルバー

3 結果及び考察

(1) 自然日長における品種の生態特性

開花期は、シロクジャクで10月中旬、早生シロクジャクはシロクジャクより1週間程度早く10月上旬、ブルースターとピンクスター2号は9月下旬～10月上旬、ピンクスター1号は9月中旬であった(表1)。

表1 自然日長における品種の生態特性 (昭61)

項 目 名	開花期 (月・日)	切花長 (cm)	最大側枝長 (cm)	茎 径 (cm)
シロクジャク	10. 10	141.5	86.7	1.12
早生シロクジャク	10. 3	132.6	83.6	0.98
ブルースター	9. 30	81.9	54.9	0.75
ピンクスター1号	9. 16	111.2	64.0	1.00
ピンクスター2号	9. 30	123.2	62.4	0.88

注. 定植：4月25日、切り戻し：6月9日、仕立本数6本
採花は、誠文堂新光社「花の切り前」の6段階時

(2) 盆出しシェード栽培の開花及び切花形質

1) 昭和61年度(表2)の開花期は、シロクジャクが8月9日でお盆出しにはばねらいどおりとなり、切花長も96cmと品質も良好であった。早生シロクジャクとブルースターは、目標よりやや早く8月1日の開花であった。

表2 盆出しシェード栽培の開花及び切花形質 (昭61)

項 目 名	開花期 (月・日)	到花 日数 (日)	切花長 (cm)	最大側枝長 (cm)	二次 生長
シロクジャク	8. 9	47	96.5	43.5	なし
早生シロクジャク	8. 1	41	85.5	44.0	なし
ブルースター	8. 1	41	74.5	32.5	なし

注. 到花日数(シェード開始～開花期)
採花は「花の切り前」の6段階時

2) 昭和62年度(表3)の開花期は、早生シロクジャクの20日間シェードでは効果が不十分であったため、二次生長が起り、品質が劣った。30日間シェードでは、8月10日前後の開花であった。ピンクスター2号は、20日間及び30日間シェードでも生育、開花期には差はなく、早生シロクジャクとはほぼ同じ8月10日前後の開花であった。

ピンクスター1号は、盆出しにはやや早い8月3日、4日の開花となったが、到花日数が約35日であることから、

表3 盆出し栽培におけるシェード日数と開花及び切花形質(昭和62)

項 目 種 名	目 日数	開花期 (月・日)	到花日数 (日)	切花長 (cm)	最 大 側 枝 長 (cm)	二次生長
早生シロクジャク	20	—	—	—	—	多
	30	8. 11	42	101.0	52.0	な し
ピンクスター1号	20	8. 3	34	105.5	56.8	な し
	30	8. 4	35	99.3	46.0	な し
ピンクスター2号	20	8. 9	40	109.5	41.0	な し
	30	8. 9	40	107.5	40.5	な し

注. 採花は「花の切り前」の6段階時

シェード開始時期を7月6日ころにすると盆出しできるものと考えられた。

3) 以上の結果, 盆出し栽培のシェード開始適期は, シロクジャクで6月25日ころ, 早生シロクジャクとピンクスター2号で7月1日ころ, ピンクスター1号では7月6日ころと考えられた。また, シェード日数は, シロクジャク, 早生シロクジャクが30日間, ピンクスター1号, 同2号は20日間程度でもよいと思われるが, いずれも30日間処理が安定していると考えられた。

(3) 彼岸出しシェード栽培における品種の開花特性

1) 昭和61年度(表4)は, シェード開始が7月23日

であったため, 開花期は目標よりかなり早く, シロクジャクが9月7日, 早生シロクジャクとブルースターが9月1日であった。

2) 昭和62年度(表4)は, 8月5日から20日間シェードを行った結果, シロクジャクは9月18日開花となり, はばねらい通りであった。早生シロクジャクとピンクスター2号は, 9月14日, 13日と目標よりやや早い開花となった。この2品種は, 到花日数が約40日であることから, シェード開始時期は8月10日ころがよいと考えられた。

シェード日数は, いずれの品種も20日間で十分であった。

3) 以上の結果, 秋彼岸出しのシェード開始適期は,

表4 彼岸出しシェード栽培における品種の開花特性

項 目 年 度 品 種 名	開 花 期 (月.日)	到花日数 (日)	切 花 長 (cm)	最 大 側 枝 長 (cm)	二次生長	
61 年	シロクジャク	9. 7	45	102.6	53.2	多
	早生シロクジャク	9. 1	39	89.6	51.5	な し
	ブルースター	9. 1	39	77.8	38.7	な し
62 年	シロクジャク	9.18	44	102.6	54.3	な し
	早生シロクジャク	9.14	40	114.5	61.1	な し
	ピンクスター2号	9.13	39	122.5	43.5	な し

注. 採花は「花の切り前」の6段階時

シロクジャクで8月5日ころ, 早生シロクジャクとピンクスター2号で8月10日ころが良く, 20日間程度の処理で十分と考えられた。

4 ま と め

盆出し並びに秋彼岸出しシェード栽培のシェード開始適期を明らかにしたが, シェード栽培を行う場合, 開花予定日の何日前からシェードを開始したらよいかを考えると,

到花日数(シェード開始～開花期)が, シロクジャクが約45日, 早生シロクジャクとピンクスター2号が約40日, ピンクスター1号が約35日であることから, 開花予定日よりこれらの日数だけ前にさかのぼって開始するとよいことになる。また, シェード開始時から切花時までの草丈の伸びは, 15cm程度であるので, 1m程度の切花を得るためには, 80cmくらいになってからシェードを開始できるよう, 栽培管理につとめることが大切である。